

## 関東平野の基盤構造アナログ模型 Analog model of basement structure below the Kanto Plain

高橋 雅紀<sup>1\*</sup>  
TAKAHASHI, Masaki<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所 地質情報研究部門  
<sup>1</sup> Geological Survey of Japan, AIST

関東平野の地震防災とその普及活動を目的に、高橋 (2008) の基盤深度コンターに基づいて、関東平野の基盤構造のアナログ模型を製作した。模型の製作は、まず厚さ 1cm のスチロール板に深さ 500m ほどのコンター線を写し取り、スチロールカッターでくり抜いた後に重ねて貼り付け、段差をカッターで取り除いたあと紙ヤスリで整形した。つづいて、500m ごとにアクリル絵の具で塗色し、地表面 (海拔 0m) は 20 万分の 1 の地質図を貼り付けた。さらに、海岸線や河川、活断層や主要な地名等を裏側に描いたアクリル透明板を重ねた。模型は、深さ方向が 4 倍に強調されている。模型を見ると、利根川中流低地帯から関東平野の西部、さらに東京湾を経て房総半島にかけて基盤の凹みが明瞭である。また、活断層である立川断層が基盤の沈降部側 (北西側) が現在隆起していることから、典型的な印旛一序運テクトニクスであることがわかる。これら堆積平野下の深い基盤構造によって、長周期地震動が局所的に増幅されると考えられる。

キーワード: アウトリーチ, 地球科学, 地質学, 普及活動  
Keywords: outreach, earth science, geology, educational promotion